

市場動向

■USD/TWD



■USD/JPY



■JPY/TWD



■EUR/USD



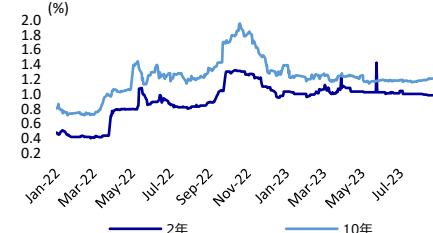
■USD/CNH



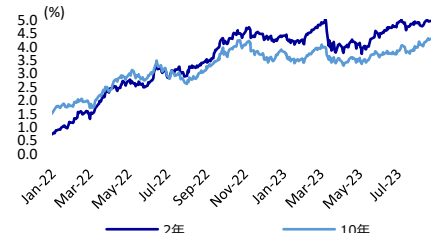
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇し、約9か月ぶりの台湾ドル安水準に。週初8/14は31.830でオープン後、中国景気への懸念等から台湾株が急落するとつられて台湾ドルも売られ、31.9台に乗せた。また、急激なドル高を受けて輸入企業がドルを急いで買う動きも見られ、31.9台半ばまで上昇。8/15は中国のサプライズ利下げもあり、人民元安や中国経済への警戒感から台湾ドルが売られると一時31.990まで上昇。しかし、32手前では輸出企業等からドル売りが入り上値は押さえられ31.9台半ばで推移した。8/16は輸出企業からのドル売りが続き、31.8台後半に下落。8/17は台湾株が下落すると31.9台後半まで上昇。輸出企業のドル売りが入り上値を押さえる場面もあったが、外国人投資家が台湾株を売り越し、結局31.9台後半で推移。8/18は台湾株が反発すると31.8台後半まで下落するも、台湾株が下落に転じると台湾ドル売りが優勢となり、最終的には先週比0.5%ドル高台湾ドル安の31.942で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は704.4億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇し、年初来高値を更新。週初8/14は144.80でオープン後、日本株が上昇する中、145円台に乗せたものの、日本株が反落すると円買いが優勢になり、一時144.65まで下落。しかし米金利が上昇すると、つられて145円台半ばまで上昇。8/15はお盆で参加者が少ない中、米・中の経済指標に反応はするものの、145円台のレンジで推移。8/16は人民元を中心にアジア通貨が全般的に軟調に推移するも、ドル円は底堅く推移していたが、米7月鉱工業生産が市場予想を上回ったこと、アトランタ連銀発表のGDPNowで見通しが引き上げられたこと、さらにFOMC議事要旨で引き続きFRBのインフレ抑制姿勢が確認されたため、米金利が上昇し、ドル円も146円台半ばまで上昇。8/17は前日の流れを引き継ぎ、146.56をつけ、年初来高値を更新したものの、円買い介入への警戒感も強く、その後は146円台前半で推移。その後、中国当局から人民元の急激な変動を防ぐために為替市場への介入を指示との報道を受け、リスク回避の円買いが強まり、145円台後半まで下落。8/18は人民元が元高、米金利低下により、144.93まで下落。最終的に先週比0.3%ドル高円安の145.41で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：31.800-32.100

今週は引き続き上値を試す展開を見込む。中国経済への警戒感は強く、台湾株は下落しやすく、またジャクソンホール経済シンポジウムでパウエルFRB議長の引き続きタカ派な現状維持のスタンスが確認されれば、米金利の上昇と共にドルが買われやすいであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：144.00-146.00

今週はジャクソンホール経済シンポジウムを控えており、パウエルFRB議長の発言に注目が集まる。足許の堅調な米経済指標からはハト派なメッセージが出るとは考えにくく、引き続き「データ次第」の変わらない姿勢を示すとなれば、ドル円の底値は堅いであろう。

今週の予定

8/21 (MON)	台湾7月輸出受注、台湾2Q経常収支
8/22 (TUE)	台湾7月失業率、米7月中古住宅販売件数
8/23 (WED)	米8月製造業・非製造業PMI、米7月新規住宅販売件数
8/24 (THU)	米7月耐久財受注
8/25 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。